

狭窄部位による PTA 開存期間の検討

長崎腎病院

○大山智之 小嶋幸徳 矢野利幸 高木伴幸 宮崎健一 李 嘉明 船越 哲
原田孝司

【目的】

当院血液透析患者の、シャント狭窄部位による開存期間の傾向を検討する。

【対象・方法】

2012 年に実施した PTA の件数はのべ 322 件、人数は 137 人であった。シャント狭窄部位別に、A 群：吻合部近傍（91 名：66.4%）、B 群：静脈部（39 名：28.5%）、C 群：吻合部＋静脈部（14 名：10.2%）、に分けて PTA 後の開存期間をみた。

【結果】

PTA 患者 137 名中、1 年未満に再狭窄し、再度 PTA となった患者は 78 名で、部位別の平均開存期間は、A 群：47.56 週（5.2～78 週）、B 群：51.68 週（8.7～78 週）、C 群：42.40 週（8.7～78 週）と有意差はなかった。開存期間の長い症例は A 群：38.5%、B 群：48.7%、C 群：35.7% であった。糖尿病は非糖尿病に比べて有意に開存期間が短かった。

【考案】

有意差はないものの C 群で開存期間が短かったので吻合部を含む複数カ所の狭窄は再建術の検討が必要かも知れない。